

※ 昨年度の部会において、調査結果速報値を報告

報告書のポイント

- ★地域や人とのつながり（ソーシャルキャピタル）が豊かなほど、健康状態を良いと感じている。
- ★健康づくりのための習慣を実践している人や健診を毎年受診している人は、健康状態を良いと感じている。
- ★つながりの程度は、地域特性や世代（ライフステージ）の特徴によって異なる。

- ➔ ●「地域や人とのつながりがあること」、「健康づくりのための習慣を実践していること」が主観的健康感の向上に寄与
- 住民一人ひとりが自分に合ったつながり方を選べるよう、地域ごとに多様な選択肢を準備しておくことが重要

調査概要

- ・対象：満20歳以上の都民
- ・規模：67,395名（島しょは除外）
- ・項目数：10（うち1項目は現プランの指標）
- ・抽出方法：住民基本台帳による二段無作為抽出
- ・調査方法：自記式の郵送調査法及びWeb調査法
- ・調査期間：令和2年11月27日～12月28日
- ・回収数：27,689名（郵送約7割、Web約3割）
- ・回収率：41.1%

報告書の構成

第1部 東京都全体の調査結果

- 第1章 都全体、性・年齢別、性職業別、加入保険別分析
- 第2章 設問間分析

第2部 区市町村別の調査結果

- 第1章 区市町村別、男女・年齢2階級別結果
- 第2章 区市町村別 レーダーチャート（地域とのつながり）

今回のNEW① 区市町村のページを充実

- ・区市町村に活用してもらうことを目的に紙面構成
- 区市町村間の比較が可能
- レーダーチャートで各区市町村の前回調査結果との比較が可能

今回のNEW② 設問ごとに都内区市町村TOP 3を掲載

自分の健康状態に対する意識

1位 ●●区 ▲▲市 3位 ■■区

居住の地域における異世代との交流の機会

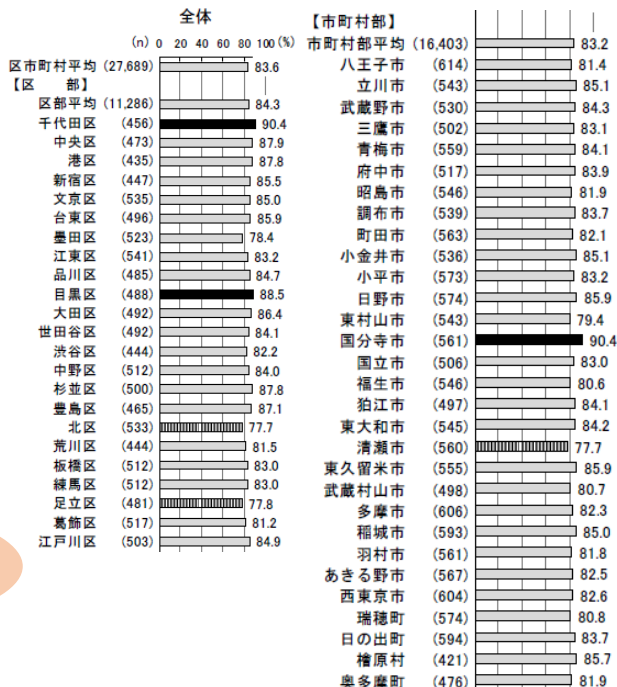
1位 ●●村 2位 ▲▲町 3位 ■■町

健康診断等の受診状況

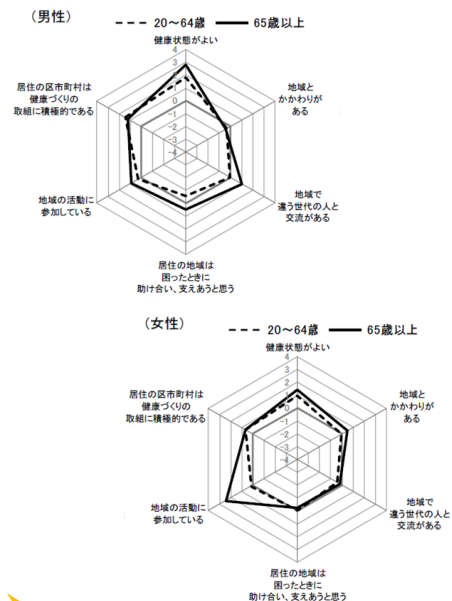
1位 ●●区 2位 ▲▲町 3位 ■■市

区平均・市町村平均・各区市町村比較

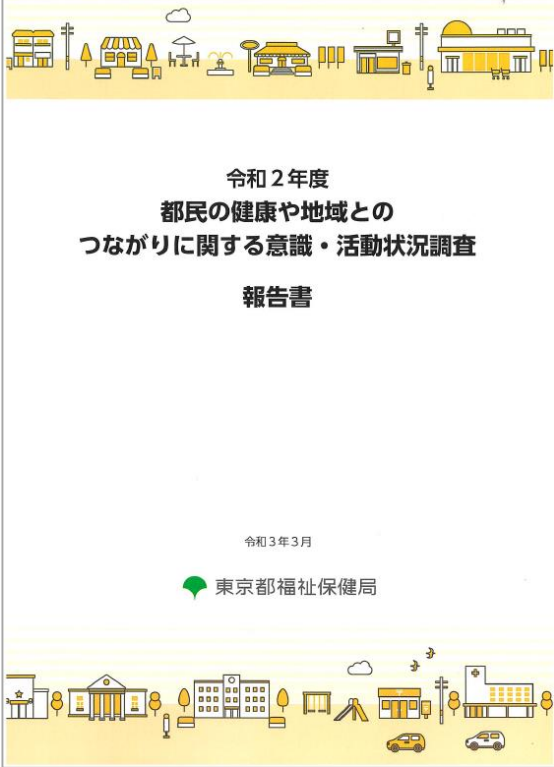
（掲載例）自分の健康状態に対する意識



区市町村ごとのレーダーチャート



2種類のグラフで提示



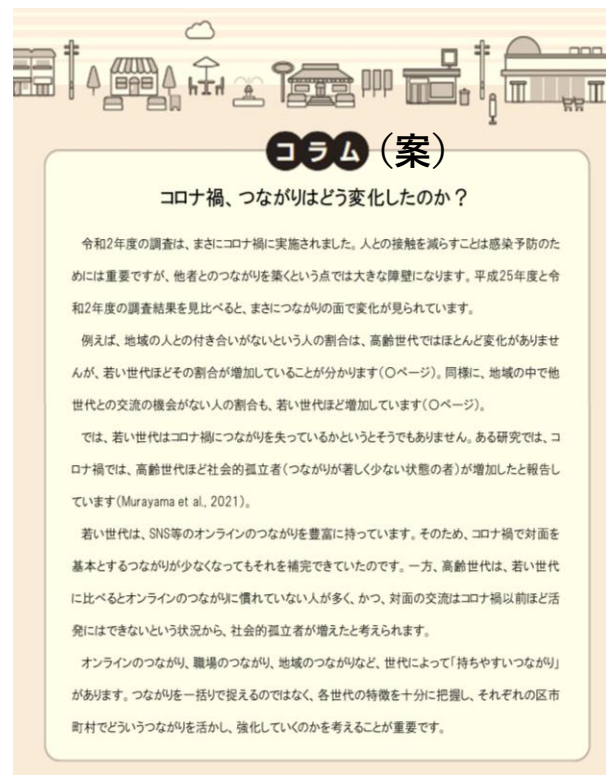
今回のNEW③ 監修者によるコラムを収録

- 自治体の健康づくりに参考になるコラムを各章ごとに掲載
- 全体総括では、地域とのつながりと健康感についてコロナ禍の「今」に参考になる内容を掲載

監修者

村山 洋史氏

東京都健康長寿医療センター研究所
社会参加と地域保健研究チーム・研究副部長



今後の東京都の取組

1. 各自治体のローデータ（個人情報を含まない）をCDRに格納して配布

- 健康づくり施策の検討や健康教育企画において調査結果の活用を促す

【活用想定】

各自治体の「健康診断等の受診状況」や「健康づくりの取組の実践状況」等のデータをグラフ化し、健康教育等に利用することで、住民に健診受診の必要性や生活習慣の改善の取組を訴求することができる。また、健康づくり施策の検討の際の、調査結果として利用できる。

2. 区市町村の取組に対する財政支援

- 包括補助事業：地域のつながりを通じた生活習慣改善事業の拡充

【現在の補助概要】

・メインターゲットを絞った上で、地域とのつながりが醸成されるような「健康教育」や「普及啓発」を継続的に実施する

・健康教育、普及啓発、講演会の実施に係る経費を補助（補助率10/10）



- ・ターゲットを絞るだけでなく、異世代間のつながりを醸成する内容にも要件を緩和
 - 地域の子供と高齢者のつながりを醸成するワーキングイベント等の実施
- ・アプリ等を利用したオンラインでのつながりも取り入れた内容にも補助を拡充
 - オンラインでの参加型の健康教育等の開催
- ・対面でのつながりを醸成するための感染症対策に係る経費を補助
 - 会場の確保や感染対策に必要な衛生用品の購入